



推奨とは何ですか？



臨床で解決したい問題（クリニカルクエスチョン）に対して、回答の形で作成される文章。

推奨とは、クリニカルクエスチョンに対して、特定の医療行為を「実施することを勧める」かどうかを示す文章で、診療ガイドラインの最も大切な部分です。診療ガイドラインの多くは推奨を4つのレベル（強さ）で示しています。「実施すること」と「実施しないこと」それぞれの方向について「強く勧める」か「弱く勧める（条件付きで勧める）」かの2種類の強さで示します。

実施するかしないか 推奨の強さ	実施することを 勧める	実施しないことを 勧める
強い	実施することを 強く推奨する	実施しないことを 強く推奨する
弱い (提案、条件付きの推奨など)	実施することを 弱く推奨する	実施しないことを 弱く推奨する

推奨の4つのレベルを決めるにあたっては、益と害のバランスとその大きさなどを評価します。例えばある医療行為にAとBの2つの選択肢がある場合、Aの方がBよりも益が大きく害が小さいとき、Aが問題なく推奨されます（強い推奨）。しかし、Aの方がBに比べて益が大きい代わりに害も大きい場合には、より慎重にAとBを比較検討する必要があります（弱い推奨）。

推奨の作成にあたっては、システマティックレビューで示された益と害のバランスやエビデンスの確実性を中心に、患者・市民の価値観や希望、費用対効果など、多角的な検討が必要です。

例えば、患者の価値観・希望は、推奨作成にあたって益と害のバランスを評価するために、患者は益と害にそれぞれにどの程度の重きを置くか、それは患者によって考えが異なるのか、皆同じ思いなのか、といった情報が必要になります。患者の価値観・希望を含めたすべての要因を丁寧に検討して、推奨を作り上げます。

